

海外の話題

你是日本人吗？（あなたは日本人ですか？）

農林中央金庫 北京駐在員事務所長 平山 勝英

10月下旬、月曜日の夜9時ごろ、所用で1日だけお休みを頂き戻ってきた北京空港から乗ったタクシー車内、言い慣れている「建国門の長富宮ホテルまで」を中国語で言った後、若干の中国語でのやり取りがあった後にしばらく間があってから、運転手から「你是日本人吗？（あなたは日本人ですか？）」という言葉が発せられた。尖閣諸島国有化問題発生後、各地で起こった暴動や略奪行為、大規模な示威活動や一部の暴力行為は別にして、一般の日本人がもっとも遭遇する可能性の高いトラブルが「タクシーに関するもの」であったため、筆者自身はこれまで運良くそういう目にはあわずに済んでいたものの、「これはついに何かやられるかな」と思わず身構えた。「タクシーに関するトラブル」でよく聞かれたパターンは、①乗車拒否、②日本人とわかった時点で途中であっても降ろされる、③（乗せてはくれるし目的地には行くものの）車内で罵詈雑言を浴びせられる、の3つで、①は既にありえず、さすがに空港から市内への高速道路の途中で降ろされる②もないとは思われたものの、30～40分間③をされるのかと思うと相当沈鬱な気分となった。ところが…

運転手氏は中国語で「你是日本人吗？」と言った後に片言ながら本当に日本語で「あなたは日本人ですか？」と聞いてきた。警戒モードに入っていた筆者は想定問答として考えていた「私は平和主義の日本人だ」と中国語で答え相手の出方を待った。しかしながらそれ以降先方の話題は、尖閣諸島問題や歴史認識的なものにふれることはなく、「自分は80年代には国営企業のオフィスに働いており日本にも1年留学していた」、「その当時は日本語も少し話せたがその後使う機会が全くなく忘れてしまった」、「北京市内の昼間は渋滞があまりにも酷いので自分は夜間のみ稼いでいる。休んでいる間に他人に車を貸すタクシー・オーナーも多いが車も早く傷むし自分はそういうことはしない」、「風邪ではない」と言いながら時折咳き込んでいたので「タバコはやめたほうがいいのでは？」と聞くと「これでも昔よりは減っている。でもやめるのは無理」、等々の他愛のない会話と、それが途切れた後の数分間の沈黙を経て、無事に筆者の住いまで到着することが出来た。

尖閣諸島問題発生から3ヶ月以上を経た今でも、業種や地域による程度の差はあれ、日系企業の皆様のご苦労には相当厳しいものがあると見受けられるものの、上記のタクシー運転手とのやり取りからも窺われるように、街中の様子や（党や政府関係でない）一般の人たちの態度と言った意味では、だいぶ事態は沈静化しつつある。どちらかと言えば寧ろ日本側の「心の傷」的なものの方が尾を引く可能性をより懸念すべきとさえ思われる。そんなに簡単な話ではないが、中国国内で「你是日本人吗？（あなたは日本人ですか？）」と聞かれた後に続く会話が普通に和やかなものとなることが期待できる状況がそう遠くないうちに実現されることを切に祈るとともに、何か役に立てることがあれば微力を尽くしたいと思う。

(2012年12月17日)